

7 支援金の効果的な活用により継続的に事業展開している事例の紹介

フォローアップ調査の対象団体を中心に、過去に「地域発 元気づくり支援金」を活用し、その後も発展的に事業を継続されている団体の皆様から、最近の活動内容や今後の事業展望等についてお伺いしました。地域づくり活動の参考となるような取組を、各地域からご報告いただいています。

地域 振興局	タイトル	団体名	掲載 ページ
佐久	現存する歴史遺産の氷風穴を通じて交流人口を増やし地域活性化を図る	氷風穴の里保存会（小諸市）	114
上田	「日本一のくるみの里・東御市」ジャンプアップ事業	日本くるみ会議（東御市）	115
諏訪	井戸尻を元気に！地域を元気に！	井戸尻応援団（富士見町）	116
上伊那	みんなで楽しむ子育てを！プレイセンター設立事業	おそと保育ぐるんぱ（宮田村）	117
南信州	長野県の女性の未来をつくる “暮らすroom's”プロジェクト	一般社団法人South-Heart（飯田市）	118
木曾	火山防災に関する知識の普及啓発と御嶽山の魅力発信事業	御嶽山火山マイスターネットワーク（木曾町）	119
松本	ゆかたで地域を元気にしよう！ 松本地域の異業種連携事業「ゆかたキャンペーン」によるまちづくり	ゆかたキャンペーン実行委員会（松本市）	120
北アルプス	“音楽の風を白馬に”地域コンサート推進事業	Hakuba Music Support Association（白馬村）	121
長野	新しくて懐かしい「紙芝居のさと」づくり	信州須坂紙芝居のさとプロジェクト（須坂市）	122
長野	コミュニティシンクタンクによる「ふるさと」のまちづくり	一般社団法人ちくま未来戦略研究機構（千曲市）	123
北信	信州中野おごっそフェア	信州中野おごっそフェア実行委員会（中野市）	125

現存する歴史遺産の氷風穴を通じて交流人口を増やし地域活性化を図る (氷風穴の里保存会)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

平成 28 年 2 月に、地元に残る氷風穴を残そうと氷風穴の里保存会が 13 名で発足し、現在は 67 名が参加している。風穴の維持管理、ガイドやパンフレット作成による広報活動、学習会や講演会などの開催により知識を深め、他風穴関係者との交流や共通の課題解決を図ることで、地元にある氷風穴を歴史的遺産として後世に残していきたい。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H29	風穴群を維持・保全、活用することにより、地域資源の魅力を認識し、観光・産業の創出を図った。	817 千円
H30	風穴群を維持・保全することにより、伝統文化を継承した。また、風穴を利用することにより、環境保全や自然エネルギー利用を図った。	670 千円
R 元	氷風穴群を維持・保全し、広く周知することで、地域の伝統文化の継承と地域づくりを推進した。また、風穴を利用することにより、風穴貯蔵作物等のブランド化や、地球環境保全を推進した。	884 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- ・年度当初に事業計画を立て、チラシやホームページにより各事業の参加を呼び掛けている。
- ・安全に見学できるように一年を通しての維持管理をしている。
- ・氷風穴の事を広く知ってもらうための広報活動や来訪者に対しガイドを常時行っている。
- ・風穴に関係のある学習会や講演会を定期的開催している。
- ・貴重な植物が自生しており、春先には観察会を行っている。
- ・今後は、風穴を利用してのエコ活用などを推進する。
- ・さらに全国の風穴に関連する団体組織と交流を深め、共有の課題解決に取り組みたい。



【 来訪者に風穴ガイド 】

取組の効果

パンフレット、ポスターや案内板の作成、駐車場などの施設整備により、メディアに取り上げられ、これまで風穴を知らなかった人からも関心が高まり、小諸市の観光スポットとなった。効果指標となる来場者数は、平成 29 年から毎月集計しているが、年々増加している。

ポイント

- 1 会員は当初 13 名でスタートし、随時の勧誘により会員の拡大に努めた。
- 2 各種事業を行う資金を捻出するため、県や市などの補助金を活用した。
- 3 来場者にわかり易い案内板の作成、駐車場などの施設整備を行った。
- 4 ガイドを行うことで、より風穴を知ってもらうことができ、新たな発見が見つかることがある。
- 5 保存会役員会を定期的に行い、課題について議論している。
- 6 資料館の建設を考えているが、資金難が今後の課題である。

団体名 氷風穴の里保存会（小諸市）
 連絡先 事務局 前田重雄
m.juyu0825@xb4.so-net.ne.jp
<https://fuuketsu.wixsite.com/koori>

「日本一のくるみの里・東御市」ジャンプアップ事業 (日本くるみ会議)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

- 東御市で 1915 年（大正 4 年）に大正天皇即位記念として旧和村全戸にくるみの苗木が配布されたことを契機に東御市のシンボルとして市内全域で栽培された。くるみ生産量は日本一である。
- もともと特産省力果樹であるくるみの栽培・品質管理は体系化されているとはいえない状況であることに加え、消費ニーズの高まりが逆効果となり、品質の良いものも東御市産くるみとして販売されている状況が散見される。
- 以前はくるみの収穫から加工、調理、食事などを通じてくるみを用いた郷土料理が受け継がれてきたが、最近では若い世代、とくに子供達がくるみを身近に感じ親しむ機会が減っている。
- 東御市産くるみの品質の安定化と収穫量の増加に向けた取組みを実施するとともに、伝統を継承し、くるみの食卓食材としての認知度を向上させ消費拡大を促進する。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R 元	くるみの生産支援、品質向上及び消費拡大を図るため、くるみの栽培指針の作成、栽培講習会の開催、くるみ料理レシピ本発行等を実施した。	2,764 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- 1 平成 10 年時点で 3,000 本以下まで減少したくるみの増産活動を始めて 24 年目となり、令和 4 年に東御市内のくるみ本数調査を実施した。
調査の結果、8,023 本まで増えたことを確認できたが、最終目標は 10,000 本以上を目指しており、今後もくるみの増産活動を進める。
- 2 コロナ禍で中止したくるみの収穫体験会を 3 年ぶりに開催
多くの参加者にくるみの収穫体験のほか、生くるみやくるみおはぎを味わってもらうことで、くるみに親しむ機会を創出し、観光誘客の面でも効果大であった。
(参加者が多すぎて、半日でくるみの収穫体験が終わってしまった。)
- 3 レシピ集『信州くるみ日和』を活かしたくるみ料理教室を計画中であるが、コロナ禍で開催をストップしている。



【レシピ集『信州くるみ日和』】

取組の効果

- 1 元気づくり支援金事業で出版したレシピ集『信州くるみ日和』が好評で初版が完売してしまったので、再編集し全国書店で好評発売中である。
- 2 前掲のレシピ集の読者から、くるみがお菓子用途のみから、料理にも使えることをレシピ集により知ったことで、くるみを利用した料理の種類が広がったとのコメントが多く寄せられている。
- 3 当会議あてに、国産のくるみが欲しいという要望が従来に比して増えた。

ポイント

当会議は産学官が連携した団体であるため、各所・団体の協力が得やすく、レシピ集『信州くるみ日和』の出版等、計画した事業がスムーズに実施できている。

団体名	日本くるみ会議（東御市）
連絡先	東御市県 2 8 1 番地 2

井戸尻を元気に！地域を元気に！

(井戸尻応援団)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

昭和 33 年、地域の人々を中心に井戸尻史跡保存会が発足しました。その活動の中から井戸尻考古館は生まれ、藤森・宮坂両氏、諏訪清陵高校地歴部などの協力で発掘・保存が進められてきた諏訪地方の土着考古学の原点です。その歴史を受け継ぎ、井戸尻を愛するみなさんと井戸尻地域を盛り上げるため、活動しています。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H29	・レンコン堀・土器作り&野焼き・復元家屋での夜話 ・信濃境駅の写真の取り換え・蓮の葉茶の製品化	459 千円
H30	・レンコン堀・井戸尻のイベントを紹介するパンフレット作り ・井戸尻のシンボルマーク作成・展示用の写真の作成 ・復元当時の講演会・復元家屋の吹き替え事業	642 千円
H31	・シンボルマーク入りクリアファイル&マグネットステッカー&アイロンプリントシール作成。 ・ポストカード作成郵送・復元住居屋根の修復作業	619 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

コロナ禍で一般参加のイベントが難しい中、ネット配信（Facebook やインスタ、YouTube での動画配信）に力を入れている。ネット環境のない地域住民のために配信している動画の上映会の開催を予定している。今年度の収穫祭で考古館から本物の土器をお借りして布に拓本をしたが好評だった。今後も井戸尻の素材を生かしたみなさんが楽しめるような企画・情報発信をし、井戸尻ファンになったみなさんが PR 大使になってもらえるような活動を目指している。



【井戸尻コウホネ池の草取り作業】

取組の効果

最近「縄文」が注目を集めており、富士見町内でも「井戸尻」を盛り上げようという活動がいくつかある。それぞれの活動の発信の相乗作用により、地元の人たちも地域の宝に気づくきっかけになっていると思う。

ポイント

よそ者には魅力的なことも地元の人には当たり前になってしまっていることも多い。地元の人を中心にした仲間づくりをしたいと思っはいるが、そこにこだわっている必要はないと思うようになった。いわゆるよそ者が楽しそうな活動を重ねていくことで、地元の人にも楽しさが伝わるのではないだろうか。何より活動をしている仲間が楽しんで無理なく続けていくことが大切だと思っはいる。

レンコン堀など、泥だらけになって本当に大変な作業だが、参加者は他ではできない体験だと喜んでくれている。縄文と言えど考古学なことだけではなく、素人ならではの発想で素朴に楽しみ井戸尻に関心を持つきっかけをつくれる活動ができればいいと思っはいる。

Facebook



YouTube



団体名 井戸尻応援団（富士見町）
連絡先 エンジェル千代子
chiyoko@chiyokoangel.com

みんなで楽しむ子育てを！プレイセンター設立事業 (おそと保育ぐるんぱ)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

ニュージーランド発祥の幼児教育施設プレイセンターの運営を行っています。
プレイセンターは、子どもたちに自由に創造的な遊びができるよう環境を用意することや、プレイセンターを運営する親にとっても学びの場となることに特徴があります。
既存の幼稚園や保育園にない、子どもたちがもっとのびのびと遊べる場所を、子育て中の親子が主体的に創っていくことを目的としています。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

子どもの育ちを積極的に考えたり見守ったりしたい親たちの多様なニーズにこたえるべく、ニュージーランド発祥のプレイセンターを開設しました。
スーパーバイザーや日本プレイセンター協会から講師をお招きし、座談会・講演会を実施しました。

活用年度	事業概要	支援金額
R 元	プレイセンター協会で推奨される遊びのためのおもちゃなどを購入。子育て中の親向けの講演会及び座談会を開催した。	487 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

○ 活動内容

毎週金曜日 10 時から 11 時 30 分に宮田村中越集落センターで活動しています。「遊びのセッション」や、スーパーバイザーがファシリテーターを務める「まなびあい」を実施し子どもの遊びの場、親の学びの場を提供しています。

○ 今後の事業展開

スーパーバイザーの子育てが終わっても子育て世代のために活動を続けていきたいと思っています。次の世代に、子育ての大変さだけでなく楽しさを見せられるような活動をしていきたいと考えています。



【 セッションの様子 】

取組の効果

- プレイセンターでは、自分の子どもだけでなく年齢の違うほかの子どもも見られるため、参加する親にとって子育てのヒントを得たり多くの学びがありました。また、遊び終わった後は、親同士で日ごろの悩みや出来事を話す時間を設けているため、親同士の交流につながっています。

ポイント

- プレイセンター設立時は地元の理解を得るため、何度も対話を重ねました。
- スーパーバイザーの出産が重なったため、活動を継続することが大変でした。活動を止めてしまうと再開することは難しいため、無理せず活動を継続することを目指しています。

団体名：おそと保育ぐるんぱ
連絡先：groompa_m@yahoo.co.jp
HP (BLOG) :
<https://pmiyada.naganoblog.jp/>
LINE : <https://lin.ee/1n1qKdZP>

長野県の女性の未来をつくる“暮らす room's”プロジェクト (一般社団法人 South Heart)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

「好きなこと、得意なことで社会に貢献している女性を増やす」ため、「ヒト×モノ×地域をつなげる」をコンセプトにして平成28年から事業を展開しています。また、令和元年からはSDGsの「誰一人取り残さない」社会の実現に向けての活動をはじめました。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R 1	「倫理的な消費活動」という意味のエシカル消費の認知度を高めるため、エシカルに力を入れている店舗のマップやフリーペーパーを製作し、街歩きイベントや学習会、エシカルマルシェを開催	1,227千円
R 2	引き続きエシカルマップ・フリーペーパーを作成して情報発信に取り組むとともに、エシカルマルシェを開催(いずれも掲載・参加企業が増加) また、「SDGsについて語ろう会」をオンライン及び下伊那農業高等学校で開催し、SDGsの啓発に努めた。	937千円

最近の活動内容と今後の事業展開

暮らしやすく、生きやすく、働きやすい女性の未来をつくることを目的に、令和3年9月にSNS上の「長野県女性SDGs」グループで繋がった県内5団体(当法人を含む)が令和4年7月からコンソーシアムを組み、「長野県の女性の未来をつくる“暮らす room's”プロジェクト」を開始しました(長野県みらい基金助成事業)。

この事業は、①暮らしを考える、②学びの提供、③コミュニティづくりの3つの事業を柱に、「自立した女性が増える社会」を目指しています。

① 暮らしを考える

女性が日頃訪れるカフェ、美容院、エステサロン、雑貨店などの“暮らす room's”を本事業の「入り口」として全県に展開するとともに、構成団体が月1回程度座談会等を開催し、他の団体とも連携して女性のキャリアやライフステージに合わせた多様な対話や気づきの機会をつくりまします。

② 学びの提供

“暮らす room's”をきっかけに「気づきから学びへ」発展させ、女性がそれぞれのステージで必要なニーズに対応する起業、キャリアアップ、子育て、介護などのセミナーを開催。成長を促すための学びを提供します。

③ コミュニティづくり

“暮らす room's”の気づきと学びを継続支援するため、女性がつながり合い、お互いに学びの継続や行動を支援するコミュニティをつくりまします。



【2021年エシカルマルシェチラシ】

取組の効果

- 活動を継続することで輪が広がり、SDGsの「誰一人取り残さない社会」を実現するという志を同じくする他の4団体(㈱エルズグランドケアアカデミー、ゆめサポママ@ながの、ワイルドツリー、㈱CREEKS)との新たなプロジェクトの立ち上げに繋がりました。
- エシカルの情報発信等を行ったことで、行政や各関係機関と連携をすることが可能になり、令和4年は「南信州環境メッセ2022」の中でエシカルマルシェを開催しました。

ポイント

様々な団体や個人とお互いの情報交換を行ったり、それぞれの得意なことを持ち寄って活動するなど、ゆるやかな関係を築くことで継続して取り組むことができました。

団体名 一般社団法人 South-Heart (飯田市)
メール:southheartiida@gmail.com
H P: <https://south-heart.com/>

火山防災に関する知識の普及啓発と御嶽山の魅力発信事業 (御嶽山火山マイスターネットワーク)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

2018年から御嶽山火山マイスター制度がスタートした。2014年の噴火災害からの経験や、御嶽山が作り出す自然と火山のつながり、御嶽山と木曾地域の文化など、様々な場面で「火山との共生を考えるきっかけ」を提供する火山防災減災へ向けた普及啓発、また四季折々の御嶽山の魅力を発信する。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R1	<ul style="list-style-type: none"> 御嶽山火山マイスターと一般の方の基礎的知識を向上させる講演会とフィールドワーク 今後の火山防災や観光に役立てるための登山者アンケート 	357 千円
R2	<ul style="list-style-type: none"> 御嶽山に造詣の深い講師によるリモート講演会 小中学生と保護者に対してマイスター引率によるフィールドワーク 登山者を対象とした意識調査 写真やデータの整理とガイド用持ち資料の作成 	558 千円
R3	<ul style="list-style-type: none"> 御嶽山のとおきの魅力の SNS 発信及び写真展の開催 山の日に合わせ、安全啓発と御嶽山の魅力を発信 登山者を対象としたアンケート調査を実施。 	424 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- 前年度まで行ってきた登山者への安全啓発は今年も継続して登山シーズン中に行った。
- 登山者の行動や意識を調べるアンケート調査を今年も実施、回答は集計・分析し、防災減災や地域観光に活用できる資料とする。
- 今後、今年度完成オープンした御嶽山ビジターセンターの活用も含め活動の幅を広げ、各方面と協調しながら御嶽山の魅力発信と安全啓発に資する活動を行っていく。



【ビジターセンターでの火山教室の様様】

取組の効果

- 2014年に大きな被害の出た噴火災害の記憶の風化を防ぎ、地元の活火山に対する安全意識の啓発効果をもたらしている。
- 登山者アンケートや御嶽山の写真・データを蓄積し、貴重な資料として残している。
- マイスターが撮影した写真を SNS で発信したり、写真展で紹介することにより、御嶽山の魅力を内外へ向けて発信できている。
- 小中学生を対象として、御嶽山の歴史や現況・魅力を伝え、火山防災減災を含めた教育を行った。

ポイント

- マイスター個人の御嶽山について知識や経験を深めるために、元気づくり支援金を活用し、専門家を講師として招き、講演会やフィールドワークを実施してきた。
- 上記講演会等に一般の参加者も募り、地域の人たちの活火山防災や御嶽山の魅力再発見へ意識の誘導を行い、同時に火山マイスター制度への認知の促進を図った。
- 新たに生まれた団体の活動が地域で認知されていくためには、メディア（木曾の場合、信濃毎日新聞、中日新聞・市民タイムス・木曾広域ケーブルテレビ等）を効果的に利用することも勧めたい。

団体名	御嶽山火山マイスターネットワーク
連絡先	副代表 小林夏樹 (090-3473-5816)
メールアドレス	natsukoba710@ybb.ne.jp

ゆかたで地域を元気にしよう！
松本地域の異業種連携事業「ゆかたキャンペーン」によるまちづくり
(ゆかたキャンペーン実行委員会)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

日本の伝統文化、伝統美の継承を目的とし、住民が主体となって城下町らしいまちづくりをする。また、それによって観光客も滞在して楽しめるような街にする。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H29	<ul style="list-style-type: none"> ・商店に呼びかけ、ゆかたでの来店客には独自のサービスを行う「ゆかたキャンペーン」を実施 ・オープニングイベントではエクセラン高校生活文化コースの生徒が自作し、モデルとなるゆかたファッションショーを開催 	1, 334千円
H30	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街と協力して行う「ゆかたキャンペーン」を実施 ・オープニングイベントでは地域住民参加型で松本駅前広場にて盆踊り大会を開催 	1, 432千円
H31/R 元	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街と協力して行う「ゆかたキャンペーン」を実施 ・オープニングイベントではゆかたのファッションショーの開催やコンテスト形式で盆踊り大会を開催 ・ゆかたの体験や人力車の乗車体験を実施 	1, 549千円

最近の活動内容と今後の事業展開

新型コロナウイルス感染症の影響で商店街の協力が困難となっているが、状況が落ち着いたら再度協力をお願いする。事業は継続が大事だと考え、できることを毎年開催している。

着物に親んでもらうためにゆかたを着る機会作り、それによって地域に賑わいをもたらすようになる。

松本城管理事務所やお城盆踊りとも連携が生まれたので、地域住民、企業、団体、行政等とも協力して「和」の文化継承と地域活性をさらに推進していき、実施地域を拡大していきたい。



【ゆかたファッションショー】

取組の効果

夏のイベントやお祭りにゆかたを着る人が多くなり、観光客を取り込むよい機会になってきた。

着物のレンタルショップなど新しい事業が開業している。

ポイント

高校生など若い世代が中心になって事業展開できていることが大事である。

異業種が連携しているので色々な分野の人々が事業に携わって活躍して面白い。



【盆踊り大会】

団体名 ゆかたキャンペーン実行委員会（松本市）
 連絡先 ゆかたキャンペーン実行委員会事務局（竹田）
 TEL 0263-26-3850

“音楽の風を白馬に” 地域コンサート推進事業 (Hakuba Music Support Association)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

本事業を通して、クラシック音楽を中心に、より多くの村民に音楽芸術に対する親しみを持ってもらうこと。地域住民が主体的に音楽活動に参加し、白馬村や近隣地域の音楽家を支援する土壌を育むこと。特に、乳幼児（親子）から小中高生まで音楽を鑑賞してもらう機会を増やし、青少年の音楽や芸術に対する教養の資質向上を図る。

また、地域住民や近隣市町村、国内外の著名演奏家との連携や協働により、地域や国を越えた交流を図り、白馬村の音楽芸術に対する情熱や魅力を幅広く伝えるなど、音楽振興を通して白馬村の地域発展に寄与すると共に、村民生活の向上に資することを目的として活動している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R 元年度	白馬村役場ロビーを中心にミニコンサートを11回開催し、延920名参加「NAGANO 国際音楽祭」との連携、リゾートビューふるさと内演奏など。	427 千円
R 2 年度	コロナ禍、村内屋外でコンサートを開催、「NAGANO いのちの音楽祭」との連携、白馬CATVにて村内2000世帯に複数回放映、SNS配信など。	644 千円
R 3 年度	感染防止対策を徹底し村内各所でコンサートを開催、「NAGANO 国際音楽祭」との連携、国内外の国際的な演奏家による地域との交流演奏会、白馬CATVにて村内2000世帯に複数回放映、SNS配信など。	868 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

世界的なピアニスト碓井俊樹さんによる「親子のためのプレミアムコンサート」をウイング21ホールのステージ上で開催。毎回5組限定（3回）、走っても、騒いでも、泣いてもいいコンサートに、普段子ども連れでは参加し難い親子が参加でき大好評を博した。

また、湘南エールアンサンブルと白馬ゆかりのピアニストによるコラボコンサート、同企画ではヴァイオリンに触れ、弾けるワークショップなども開催した。未体験の楽器に触れ、音を出した感動が多数寄せられた。

親子の演奏会は、0歳～1歳、2歳～3歳、4歳～5歳など年齢に応じた対応が必要となるため、よりきめ細かな配慮をしつつ親子で楽しめる演奏会を引き続き開催する。



【世界的なピアニスト碓井俊樹さん
親子のためのプレミアムコンサート】

取組の効果

コロナ禍、白馬村内の自然豊かな屋外での演奏会が多くなり、本事業を“音風（おとかぜ）コンサート”と名付け演奏会を重ねてきた。近年、“音風”の名前が地域に定着し、コンサートへの親しみがより増してきた。結果、地域の方々の温かい支援や協力が増し、告知宣伝ポスターの掲出やチラシの配布、チケット販売などを積極的に進めてくださっている。

今後の演奏については、村内各地域での音風コンサートを引き続き開催しつつ、親子のためのコンサートや高齢者のためのコンサートなどを多彩に開催予定。また、近隣市町村、国内外の著名演奏家との連携や協働をさらに推進、芸術振興策としてアートと音楽のコラボなども計画中。

ポイント

- 地域協働の輪を広げることが大切。地域住民に事業の意義や内容を知っていただくために、地道に丁寧に活動を重ねること。
- 一般ボランティア、演奏家、企画運営など適材適所で人財を育成し活用。
- 事業の根幹となる資金面の安定が課題。事業育成に賛同してくださる支援者、演奏家などと事前に事業内容、事業計画、予算を練る必要がある。

団体名：Hakuba Music Support Association（白馬村）
 連絡先：事務局：蓮井英史/0261-72-7788
 HP: <https://nacpa.jp>（共有：長野芸術文化振興協会）
 mail: study@officehakuba.com

新しくて懐かしい「紙芝居のさと」づくり (信州須坂紙芝居のさとプロジェクト)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

- ①レプリカづくり（須坂市立博物館に眠っていた紙芝居を複製し、市民が使える文化財にする）
- ②まちづくり（完成したレプリカを使って、ふるさとを元気にする。紙芝居文化の香るまちづくり）
- ③ひとづくり（紙芝居演者を育てる。紙芝居という文化財のあるふるさとを誇りに思う市民を育てる）

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H29	街頭紙芝居最後の絵元・塩崎源一郎氏(須坂市出身)から寄贈された昭和の貴重な紙芝居のレプリカ100枚を市民の手で作成。「まつり」で披露。プロジェクトの周知を図る。	957千円
H30	同レプリカ100枚を市民の手で作成。「信州須坂とことん紙芝居塾」スタート。シニア世代を対象に人材育成。	911千円
H31(R元)	同レプリカ500枚を市民と清泉女学院大学生と協働で作成。人材の育成を若者世代にも広げる。	2,337千円

最近の活動内容と今後の事業展開

R2以降、公益信託駒澤嘉須坂生涯学習振興基金助成金でレプリカ作成を継続。全巻復刻をめざしている(R5終了予定)。まちの活性化と人材育成を目的に、定期的に街頭紙芝居を実施しながら、コロナ禍の鎮静化を待っている。できるだけ早くレプリカを常設展示できるスペース(店舗)を確保し、市民や観光客と交流できる施設(拠点)をつくりたい。



【毎月第3土曜日は街頭紙芝居の日！】

取組の効果

元気づくり支援金を活用して取り組んだおかげで、地域における評価&知名度が高まった。文化・芸術分野のボランティアとして、須坂市の生涯学習やまちづくりの事業等から声がかかるようになり、積極的に参加するよう努めた結果、令和4年度から5年間の、須坂市商業観光課からの委託事業につながった。当初からの事業の流れ（市民を巻き込んでレプリカをつくり、「とことん紙芝居塾」で人材を育成し、「紙芝居のさとまつり」で成果を発表する）を大きく変えず、継続して遂行できるよう会員が努力してきたことで、地域への定着が図られた。

ポイント

助成金・補助金だけに頼らず、まずは出演料や売り上げで賄うという姿勢を前面に押し出している。会員の楽しみをたいせつにしながら、須坂市の特色ある文化・芸術活動としての立場も忘れずに、行政とよい関係を保つよう努力している。コロナ禍で活躍の場が激減した際、イベント兼研鑽を積む場として、感染のリスクが低い屋外で街頭紙芝居をはじめた。街頭紙芝居の会場として、荒れていた広場に花を植え、「紙芝居ガーデン」と呼ばれるほど、まちの人たちからもよろこばれた。

信州須坂紙芝居のさとプロジェクト
〒382-0099 須坂市墨坂1-5-2
会長 内藤 靖

コミュニティシンクタンクによる「ふるさと」のまちづくり (一般社団法人ちくま未来戦略研究機構)

団体紹介 (私たちが目指しているもの)

千曲市が描いていた将来戦略（新幹線新駅や大規模土地開発事業）が次々と頓挫していく状況から、「市民レベルによる新たなまちづくり組織が必要」との思いを共有する市民により、令和元年7月に「ちくま未来戦略研究機構」を設立。かけがえのない故郷の未来を、市民・団体・企業と行政がコラボしながら研究するコミュニティシンクタンクとして、次代の「まちのデザイン」を考える「ひとづくり・まちづくり」事業を展開している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R1	<ul style="list-style-type: none"> ・ちくま未来戦略サロン開催～地域課題に関わる講演会 ・ちくま未来塾開催～地域活性化・コミュニティ・産業技術・経営革新等に関わる学習塾 ・学習支援子どもカフェ開催～夏休み期間に小中生対象の居場所提供 ・ちくま検定～資料収集と教材テキスト作成 ・市民まなび塾～スマホ等・IT講座など開催 ・若者社会活動支援～屋代駅での音楽ライブ活動支援 ・シティプロモーション～ホームページ開設、市民広報紙の新規発行 ・活動拠点「ちくま未来ステーション」の設置・運営 ・その他～一重山プロジェクト、市総合計画策定等への参画 	3,218 千円
R2	〃	2,006 千円
R3	〃	2,813 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- ・未来戦略研究～3年間に亘って展開してきた「ちくま未来戦略サロン・ちくま未来塾」等を継続実施。地域未来への課題を様々なまちづくり団体等とコラボしながら事業提案。
- ・ちくま未来大学～マルチステージに対応した生涯学習、デジタルスキルへのニーズ等いわゆる「学び直し」、更には、広範なふるさと学習などを、新たなプラットフォーム「ちくま未来大学(仮称)」において展開。
- ・地域の魅力再発見・ちくま検定～令和3年度において一応の収集編纂が完了した「ちくま検定データ」を「ちくま大百科」としてテキスト化。令和4年に第1回の検定試験を実施。更にデータの補充整備を進める。
- ・街情報の提供とシティプロモーションの展開～市民広報紙「ちくま未来新聞」を毎月発行。併せてWEB化により若者層等へ情報受発信。今後、増ページ及び記事内容や購読対象を広域生活圏エリアに拡大していく。
- ・ちくま未来ステーション施設整備～コロナ禍でリアルな講座等ができなくなっている現状等を踏まえ、オンライン機能への設備改善を進め、市民活用の拡大を進める。



【ちくま未来戦略サロン】

取組の効果

- ・まちづくりに対する市民の意見交換や交流が促進、市民協働によるまちづくりが進んだ。
- ・街なかでの居場所づくりを通して、子どもたちのアクティブな行動が促進された。
- ・ご当地検定実施テキスト作成により郷土に関わる学習活動がより活発になった。
- ・市民目線に立った「ちくま未来新聞」の発行により、地域の細かな動きや話題を市民に提供。まちづくりへの意識と関心が高まった。
- ・中心市街地内に新たな活動拠点を整備。人生100年時代の多様な学習ニーズに対応するとともに、賑わいの復活に寄与した。

ポイント

- ・まちづくりに思いを寄せる市民は数多くいるが、当機構の構成員としての取組はなかなか進まない。簡単に気軽に参加できる仕組みが求められている。
- ・当機構の場合、新聞の発行やSNSによる情報発信事業により当機構を知っていただいている。このことが市民への周知となり会員加入や広告料収入などに大きく寄与している。
- ・スタッフは原則ボランティアで現役世代の一部を除き無報酬。このため、非営利法人でもできる収益事業として講座開催による参加費、新聞広告収入、企業協賛金等を見込んでいる。自主財源の確保が課題。
- ・当機構のスタッフは行政や企業のOBが主体。財務面から現役世代は無理なのでユースパワーや子育て中の女子力を期待しており、口コミによりで事業への参画を呼び掛けている。
- ・増加する事業に対応していくため、毎週定例の打合わせ会を開催し事業の調整を図っている。この情報交換は大変効果がある。
- ・まちづくりに関わる団体との有機的な連携が求められるがそれぞれの活動内容が違うことからなかなか難しい。とりあえず情報交換からの緩やかな連携からスタートしている。
- ・市民協働から市民協創によるまちづくりが求められているが、本来の仕事を持っている現役世代の参加は極めて難しい。市役所や企業団体の職員が短期あるいは一時的に派遣される制度ができないものか。

一般社団法人ちくま未来戦略研究機構
(千曲市)
連絡先 (西澤秀文、090-8843-1972)
ホームページ ckm-mirai.org
メールアドレス info@ckm-mirai.org

信州中野おごっそフェア (信州中野おごっそフェア実行委員会)

団体紹介 (私たちが目指しているもの)

中野市は、農産物の生産量、品質がともに高く、ぶどうやきのこ、りんごなどの全国トップレベルの産地として知られている。

中野市を訪れ、新鮮でおいしい食材を使った料理やフルーツに舌鼓を打ち、食や伝統文化など地域の魅力を発信し、産業の振興と交流人口の増加につなげるため、長野県の方言で「おいしいご馳走」を意味する「おごっそ」が一堂に会する「おごっそフェア」を開催している。

このフェアは、2016年から毎年開催しており、北陸新幹線の敦賀延伸を控え、首都圏に加え関西圏との交通の利便性が向上する中で、おごっそフェアを通じた交流の重要性は増している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H29	会場設営、広報、シャトルバス等、コンテスト等	901 千円
H30	会場設営、広報、交通警備・シャトルバス、イベント・企画等	3,040 千円
R1	会場設営、広報、交通警備・シャトルバス等、イベント・企画、その他運営	4,400 千円

最近の活動内容

【2022 信州中野おごっそフェア】

開催日：令和4年10月15日(土)、16日(日)

会場：中野陣屋広場公園 (入場無料)

- うまいもんブース：31店舗のブースが出席
- おやきグランプリ：オリジナルおやきのグランプリを決定
- 体験型企画の実施：シャインマスカット収穫体験や、エノキ瓶を積み上げるエノキ瓶タワーチャレンジ等を実施
- ステージイベント：ローカルヒーロー“倍増戦士ロゼ”によるショーやダンスステージ等を開催



【フェア当日の様子】

取組の効果と今後の事業

来場者数：7,500人 (R3：2,681人、R2：992人、R1：10,015人)

今年度で7回目の開催となり、東日本台風災害や新型コロナウイルスの感染拡大で一時的に減少した来場者数も、回復してきており、中野市の秋のイベントとして、定着が見られる。

当初は、来場者の9割超が中野市民だったが、最近は半数程度が中野市外から来場しており、中野市の農産物等をPRする機会として定着している。

今後も、関係団体と連携しながら、中野市の食をPRする機会として、大きな役割を担えるようにしていきたい。

ポイント

ステージイベントや体験型企画を工夫し、リピーターも楽しめる内容となるよう心掛けている。

また、旬の食材等を販売する「ミニおごっそフェア」を定期的に市内の公園やショッピングモールで行うなど、通年で食の魅力が発信できるように取り組んでいる。



【チラシ】

信州中野おごっそフェア実行委員会
 連絡先：0269-22-2191 (信州中野商工会議所)
 メール：ogosso@nakanocci.or.jp
 ホームページ：https://www.ogosso.nakanocci.or.jp/